

# にぎ 食の祭典 3日間賑わう

## 登米風土博覧会に2万人



出店の前では売り子の元気な掛け声が響いていました



好天にも恵まれ、3日間で約2万人が訪れた登米風土博覧会

登米の「旨い」をあなたが決める3日間。登米市のご当地グルメを集めた食の祭典「登米風土（Food）博覧会」が4月27～29日までの3日間、追町にある長沼フットピア公園を会場に開催されました。今年4月から6月まで県内で展開される大型観光キャンペーン「仙台・宮城デスティネーション」の一環です。期間中は市内外から約2万人が訪れました。

今年は、市内産の食材を使った弁当やバーガー類、菓子、お土産品を提供する32店舗が出店。最終日の29日には、来場者の投票により、四つの部門でそれぞれグランプリを決めました。

追町の新田駅前区で組織する新田駅前区自主防災互助会（石川法夫会長）と地区内に立地する特別養護老人ホーム「せくれ」を運営する社会福祉法人ふれあいの里（宮崎裕理事長）が5月9日、災害時応援協定を締結しました。地区の自主防災組織が単独で災害協定を締結するのは

市内では初めてとなります。協定は、災害時に「せくれ」を新田駅前区の避難所にしたり、施設内にあるAED（自動体外式除細動器）を使用したりすることができるとしたものです。締結式には、新田駅前区の住民や「せくれ」の職員、布施孝尚市長ら約20人が出席しました。

# 災害時応援協定締結式



災害時応援協定を締結した社会福祉法人ふれあいの里と新田駅前区自主防災互助会の関係者（前列中央右から二人目は布施市長）

## 新田駅前区と災害協定 特養施設を避難所に

# 来館者10万人を達成

### 歴史博物館 開館12年で

追町にある市歴史博物館で4月23日、開館からの入館者が10万人となりました。記念すべき10万人目の入館者は、七ヶ浜町にお住まいの鈴木正広さん。鈴木さんはこの日、妻のとしえさんと登米市を訪れ、鹿ヶ城公園の桜を鑑賞しているときに博物館を見つげ入館したとのこと。

鈴木さんには同館の泉敏彦館長から10万人目の認定証と記念品が手渡されました。市歴史博物館は平成12年10月28日に追町歴史博物館として開館。市内にある縄文時代の遺跡の出土品や江戸時代の武器、農具などを常設展示、映像コーナーや情報検索コーナーもあります。



泉館長から（左）から来館10万人目の認定証を受け取る鈴木さん夫妻（写真は大崎タイムス提供）



「学級を構成している児童・生徒の状況をどう見極め分析し、どう対応すべきか」などと話す講師の河村氏（中央）

# いじめのない学校づくり

### 市内教職員対象に研修会

市教育委員会では、市内小中学校の教職員を対象にした研修会を5月1日に開催しました。講師は、平成25年度から市内小中学生全員を対象に導入する学校生活満足尺度検査「Hyper-QU（ハイパー・キューユー）」の考案者で、早稲田大学教育・総合科学学術院の河村茂雄教授。会場の

登米祝祭劇場には、市内教職員全体の90％に当たる約470人が参加しました。「子ども同士が学び合う学級づくりをめざして」と題して講演した河村氏は、社会問題にもなっている「いじめ」や「不登校」「学級崩壊」の問題を出さないための学校づくりについて話しました。

# 「広報とめ」全国第3位

## 全国広報コンクールで評価



全国入選2席に選ばれた広報とめ（平成24年12月1日号）。同コンクールで入選するのは、平成18年に広報紙（市部）部門で入選（2席）以来2度目です

市の広報紙「広報とめ」が、平成25年全国広報コンクール（日本広報協会主催）で、全国第3位となる入選2席に選ばれました。同コンクールは、各都道府県から推薦された広報紙や広報写真、ホームページなどを対象に毎年実施されているものです。入選したのは広報紙（市

部）部門。平成24年12月1日号発行の広報とめで、震災の被災者支援に奔走した女性グループ「えがおねっと」の活動を紹介した特集が高く評価されたほか「広報紙の紙面の至る所に地域に暮らす人たちが登場し、温もりを感じさせる紙面を構成している」などの評価を得ました。